

04 OB&OGインタビュー／卒業生は、いま。
誰かの幸せのために、自分のキャリアを生かしたい。
株式会社 ロカ 長嶋 康太さん

05 学生たちの素顔
「楽しい」がたくさん集まると、人を思いやる「ゆとり」になる。
社会福祉学部 福祉臨床学科4年 儀同 唯さん

06 先生たちのその素顔
知らない言語や文化を知る。世界の見方が、人生が変わる。
経済学部 共通部門 鄭 根珠 教授

07 学生広報委員 企画ページ
キタボシ×HOKUSEI@COM
大学生協食堂のご紹介

08 HOKUSEI INFORMATION 北星学園大学からのお知らせ
●ICT教育の取り組みを紹介するWEBサイトを開設しました。
●キャリアデザインセンターのWEBサイトがリニューアルしました！
まちがいさがしクイズ
北星学園大学オリジナルグッズが当たる！



02-03

特集：学生主体の学びのプロジェクト

食への感謝プロジェクト2024 ～農業 make 笑顔～

文学部 心理・応用コミュニケーション学科 3年 阿部 咲月 さん

文学部 心理・応用コミュニケーション学科 3年 上野 愛奈 さん

文学部 心理・応用コミュニケーション学科 3年 住吉 美波 さん

食への感謝プロジェクト2024 ～農業make笑顔～

北星学園大学は、学科の枠を超えて学生自身が主体的に取り組む学びのチャレンジを応援しています。

心理・応用コミュニケーション学科では3名の学生が卒業までの3年間、「農業」をテーマとするプロジェクト[※]を完遂。

そして今春そのプロジェクトを引き継ぎ、進化させることを目指して3名の学生が立ち上がりました。

学びのチャレンジから生まれた夢のバトンが今、世代を超えて受け継がれていきます。

※本誌 vol.36 巻頭特集にて紹介



文学部
心理・応用コミュニケーション学科 3年
すみよし みなみ
住吉 美波さん
(北海道岩内高等学校出身)

文学部
心理・応用コミュニケーション学科 3年
あべ さつき
阿部 咲月さん
(北海道岩見沢西高等学校出身)

文学部
心理・応用コミュニケーション学科 3年
うえの あいな
上野 愛奈さん
(北海道北広島高等学校出身)

先輩の活動を引き継ぎたい！プロジェクト第二弾が始動

「食への感謝プロジェクト」が産声をあげたのは2021年。当時2年生だった3名の学生が長沼町での農業実習をきっかけに、規格外野菜の付加価値創造と認知拡大を目指す取り組みをスタートさせました。学生たちは学内イベントや高校生向けの食育イベント、規格外野菜の加工販売などを実現させ、社会へ羽ばたいていきました。

ゼミの教官として活動を見守った寺林暁良准教授は、2年生の授業で本プロジェクトを紹介。この話に大いに感銘を受けたのが阿部さんでした。「こんなすごい活動をしていた先輩がいたと知り、私もやってみたい!」と思って寺林先生に相談し、先輩とお話する機会を設けていただきました。直接お話しして熱い思いを受け取ったことで、先輩たちの活動を引き継ぐ気持ちが固まりました。入学以来仲良しの住吉さんと上野さんに声をかけたところ即快諾。新チームによる「食への感謝プロジェクト」第二弾が始動しました。



長沼の駒谷農場さんには農業実習からお世話になっています。ありがとうございます！



野菜が手元に届くまでにたくさんの苦勞と膨大な時間がかかっていることを実感。



どうしたら短時間・低コストでおいしく作れる？試作に明け暮れる日々が続きました。



素直なネーミングと温かみのあるデザインがカボチャ本来のおいしさを表現しています。



長沼の道の駅で販売会を開催。プロジェクトに興味を持ってくださる方も多く、励みになりました。



プロジェクトを進化させるために、 できることって何だろう？

そもそも阿部さん・住吉さん・上野さんが本プロジェクトに興味を持ったのは、先輩たちと同じく長沼の農業実習に参加した経験があったから。「カボチャの収穫をお手伝いしたのですが、ずっしり重たいカボチャを手作業でコンテナに積み込むのはほんとうに大変でした。暑い中での畑作業で熱中症になるほどつらい思いをして収穫したのに、ちょっと形が悪いだけで規格外になってしまうなんて残念すぎる!と思ったんです」と阿部さん。「もともと商品開発に興味があった」という住吉さんにとって本プロジェクトは願ってもないチャンスでした。そして持ち前の負けん気に火がついたのが上野さん。「先輩たちの活動も素晴らしかったけど、ただ引き継ぐだけでは真似事で終わってしまう。私たち独自の企画を実現させ、プロジェクトを進化させることが課題だと思いました」。

先輩たちの活動記録を参考に、学生主体のプロジェクトに助成金を付与する学内助成制度を利用して資金調達を行い、食品の製造・販売などに必要な資格や保健所等の許可を取得。規格外野菜の加工や商品化のプロセス、商品のネーミングやパッケージデザインなどについて専門家からアドバイスを受けることができたのも、先輩たちが築き上げた人脈のおかげです。でも今回のミッションは「先輩たちを超える独自の企画でプロジェクトを進化させること」。さて、3人はどんなアイデアを考えたのでしょうか？

SNSでの情報発信や販路開拓、コラボ企画が大成功！

今回使用するのは、農家さんの苦労を実感した規格外カボチャ。3人は長沼の農場へ通って農作業を手伝い、成長記録をSNSにアップして認知拡大に努めました。そして予算内で作れる加工品のレシピを考え、製造コストを抑えるために学内の学生交流会館「kirari」のキッチンで試作を重ね、ついに冷凍カボチャペースト「かぼちゃのまんま」が完成。試作段階ではスーパーで買った外国産カボチャを使用していましたが、収穫期を迎えた長沼産カボチャで作ってみたら想像以上のおいしさにびっくり! 規格外でも味は変わらないと改めて確信したそうです。

先輩たちも販売会を行った長沼道の駅マオイの丘公園に加え、今回は新さっぽろの商業施設でも販売。いずれもあっという間に完売しました。さらに小売店や飲食店に「かぼちゃのまんま」を使った商品を販売してもらうコラボ企画にもチャレンジ。長沼町内のカフェやキッチンカーのオーナーに掛け合って期間限定のコラボメニューを提供していただきました。お客さまはもちろんオーナーにも「カボチャを蒸したりつぶしたりする手間が省けた」と喜んでもらえたそうです。さらに学内でも長沼のパン屋さんとコラボしたあんぱんとシナモンロールを販売し、学生に活動を知ってもらう機会を創出できました。

畑の「いま」を伝えるSNSを使った情報発信、長沼から札幌への販路開拓、規格外野菜の価値を知ってもらうコラボ企画は、3人のアイデアから生まれたオリジナルの活動。「プロジェクトを進化させる」というミッションは見事に実を結びました！

▶ プロジェクトを振り返って



阿部さん：やりたいことがたくさんあってもできないまま終わることが多かったけど、みんなで力を合わせれば夢は実現できると実感でき、大きな自信になりました。ひとつの商品が世に出るまでにはさまざまな分野の仕事が関わっていることを知り、社会は面白いと思えるようになったし、就活の選択肢も広がりました。



上野さん：自分だけでなくチーム全体のスケジュールを同時進行で管理するのが大変でしたが、失敗と実践を重ねるうちに臨機応変な計画実行力が養われたと感じています。多くの人と関わって何かを作り上げる面白さを実感し、企業の商品開発や地域振興に関わる仕事に興味が湧きました。この経験はきっと生きてきます!



住吉さん：以前は自分から動くタイプではなかったけれど、目標や計画をみんなで共有することで、自分ができていることを考えて自発的に行動できるようになりました。規格外野菜と向き合う中で食品ロスや消費者の意識にも目を向ける必要があると実感。もっと勉強して、社会全体の意識を変えるきっかけを作っていければと思います。

先生から
ひと言



文学部
心理・応用コミュニケーション学科
寺林 暁良 准教授

今回は昨年までの活動を引き継ぐ形で始まりましたが、3人が自主的に考え、活動内容を発展させていきました。教員としては多少アドバイスする程度で、自分たちで販路開拓やコラボ企画を実現させて行ったのは見事でしたね。この学科では地域資源を活用したコミュニティの活性化にも着目しているので、長沼町の事業者とのコラボレーションは大きな成果だったと思います。1年生の中にはこのプロジェクトに憧れて入学したという学生も。協力してくださった方々に心から感謝すると共に、この活動が次世代へ受け継がれ、学科と地域に根差したプロジェクトに成長していくことを願っています。



厚別区の商業施設「BiVi新さっぽろ」で第2回販売会を開催。限定30個が完売しました。



移動クレープ店「mio ばんだ」とのコラボ商品を学内で販売。折しもハロウィンで学生に大人気でした。



先輩から受け継いだプロジェクトを進化させたい。その願いはコラボ企画となって実現しました。(左から) 駒パン：かぼちゃのあんぱんとシナモンロール／ mio ばんだ：かぼちゃクレープ／ NAGANUMA blue base：かぼちゃのプリンとチーズケーキ。

OB & OG interview 卒業生は、いま。

誰かの幸せのために 自分のキャリアを生かしたい

「祖母や家族の役に立ちたい」と社会福祉部へ進学し、「誰かの役に立ちたい」とコスメ業界へ。北海道の人気コスメブランドから独立し、共同経営者とともに新しいコスメブランド「LOCA」を立ち上げた長嶋さんに、仕事への向き合い方や学生時代の思い出などを伺いました。



株式会社 ロカ

ながしま こうた

長嶋 康太 さん

(札幌白石高等学校出身)

2011年3月

社会福祉学部

福祉臨床学科(現:社会福祉学科)卒業

<https://loca-beauty.com/>



社会福祉学部から縁あって化粧品メーカーへ

社会福祉学部に進学したのは、同居していた祖母の在宅ケアに役立つ福祉の知識を学びたいと考えたから。でも施設実習を経験して「生業とするには自分には合わないかも」と感じ、就活を始めて出会ったのが、北海道砂川市に本社を置く化粧品メーカー「LAUREL」(現・SHIRO)でした。面接で「自己PRできる場所に連れて行ってください」と言われ、しっかりと「人」を見ようとしてくれているなど感じ、ここで働きたいと思いました。ちなみに面接官を案内した場所は卒園した保育園。ここで出会った先生や友達とは卒園後もお付き合いが続いているんです。「人とのご縁」を大切にしている部分が伝わり内定につながったのかもしれません。

12年間の経験を携えて新ブランドを設立

シロには約12年間在籍し、販売のほか道外出店や催事運営、広報、カスタマーサポートなどに携わってきましたが、縁あって現在の共同経営者と出会い、2022年5月に株式会社ロカを設立。同年9月、次世代型レチノールなどの有効成分を配合した美容液「RARE DROP」を発売しました。社名は「濾過」に由来し、不要なものを取り除いて必要なものだけを届けたいという思いが込められています。今後は僕が得意とするフレグランスや共同経営者が精通するメイクアイテムの開発にも取り組み、コスメを通じてお客さまに何か一つのきっかけを与えることができれば幸いです。

無駄な学びや経験はひとつもない

結果的に社会福祉とは異なる道へ進みましたが、大学で学んだソーシャルワークやコミュニケーションの方法は、接客やビジネスシーンで大いに役に立っています。ロカのブランドサイトやSNSの商品撮影も自分で行っているのですが、そのきっかけも大学時代なんです！ 本学が協賛している厚別区の写真コンテスト学生部門の大賞を受賞し、副賞で初めて本格的なカメラを買ったんです。それから撮影が面白くなり、パリ・パラリンピックでの撮影企画も実現しました。これまでに得た学びや経験はひとつも無駄になっていないと実感しています。「1ミリでも誰かのプラスになる行動と意識を持つ」が僕のモットー。これからも誰かの幸せのために自分のキャリアを生かせる人間でありたいと思っています。



昨年11月、東京で開催された大学同窓会にて。本学学長の中村和彦教授(写真右)には在学時や卒業後もお世話になっています。



「みんなの！新さっぽろフォトコンテスト」大賞作品「和」。最近の写真はInstagram (@kota_nagashima) をチェック！



「楽しい」がたくさん集まると 人を思いやる「ゆとり」になる



社会福祉学部
福祉臨床学科4年
儀同 唯 さん
(北星学園女子中学高等学校)

「あしなが学生募金」の運営スタッフとして遺児の支援活動を行う傍ら、近年人気が高まるスポーツ「モルック」を通して幅広い世代の交流を楽しむ儀同さん。父を亡くしてからの環境の変化に葛藤しながらも、学生生活を謳歌して社会へ羽ばたく彼女の姿は、進学を夢みる遺児たちの大きな希望となるに違いありません。

奨学金を受けて大学進学の実現

「あしなが育英会」は、病気や災害などで親を亡くしたり、親が障がいや働かない家庭の子どもを奨学金や心のケアなどで支援する団体です。私は中学1年の時に父が他界し、あしなが育英会の奨学金を受けて本学短期大学部に進学しました。福祉分野を専攻し、もっと専門的に学びたくて大学に編入。奨学金がなければ今の私はなかったと思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。

一人でも多くの子に支援が届くことを願って

あしなが育英会の奨学金は街頭募金に支えられています。私も入学以来募金活動に参加して、あたたかいご支援に励まされてきました。今春からは学生団体「あしなが学生募金事務局」に加入し、プレスリリースや運営などのお手伝いをしています。募金活動というソーシャルアクションに参加できるやりがいを感じる一方、奨学金をめぐるさまざまな課題を痛感することも少なくありません。物価高が続く中、遺児家庭や貧困家庭、障がいなどで親が働くことのできない家庭は生活困窮を極め、1日1食で過ごす奨学生も。奨学金の申請者は増えているのに資金が足りず、奨学金が受けられない子どもも多く、もどかしさを感じています。あしなが育英会は親を亡くした子ども同士がつながり合い、つらい気持ちを分かち合って前へ進んでいくための大切な居場所でもあります。もっと多くの方に奨学金の意義を知ってもらい、一人でも多くの子に支援が届くことを願っています。

「モルック」を通じて地域の交流も楽しんでいます

私は奨学金のおかげで充実した学生生活を送ることができました。2年の時にフィンランド発祥のスポーツ「モルック」にどハマリ!学内にも仲間を増やしたくて、友人と後輩とでチームを結成しました。ルールが単純で老若男女が楽しめるのがモルックの魅力。最近は地域の子ども会や町内会からも「やってみたい」と依頼があり、幅広い世代との交流が生まれています。楽しいことが多いほど、自分以外の人を思いやるゆとりが生まれるもの。「楽しい」をたくさん集めて、人に寄り添える大人になりたいと思っています。



募金活動は日頃から奨学生へ心を寄せてくださる方々と直接お話しできる貴重な機会。「頑張って」というあたたかい声が励みになります。



モルック(棒)を投げて倒れたピンの本数または記されている数字を加算し、50点になった方が勝ち。単純だけど不思議とハマるスポーツです!

Featured Faculty Member

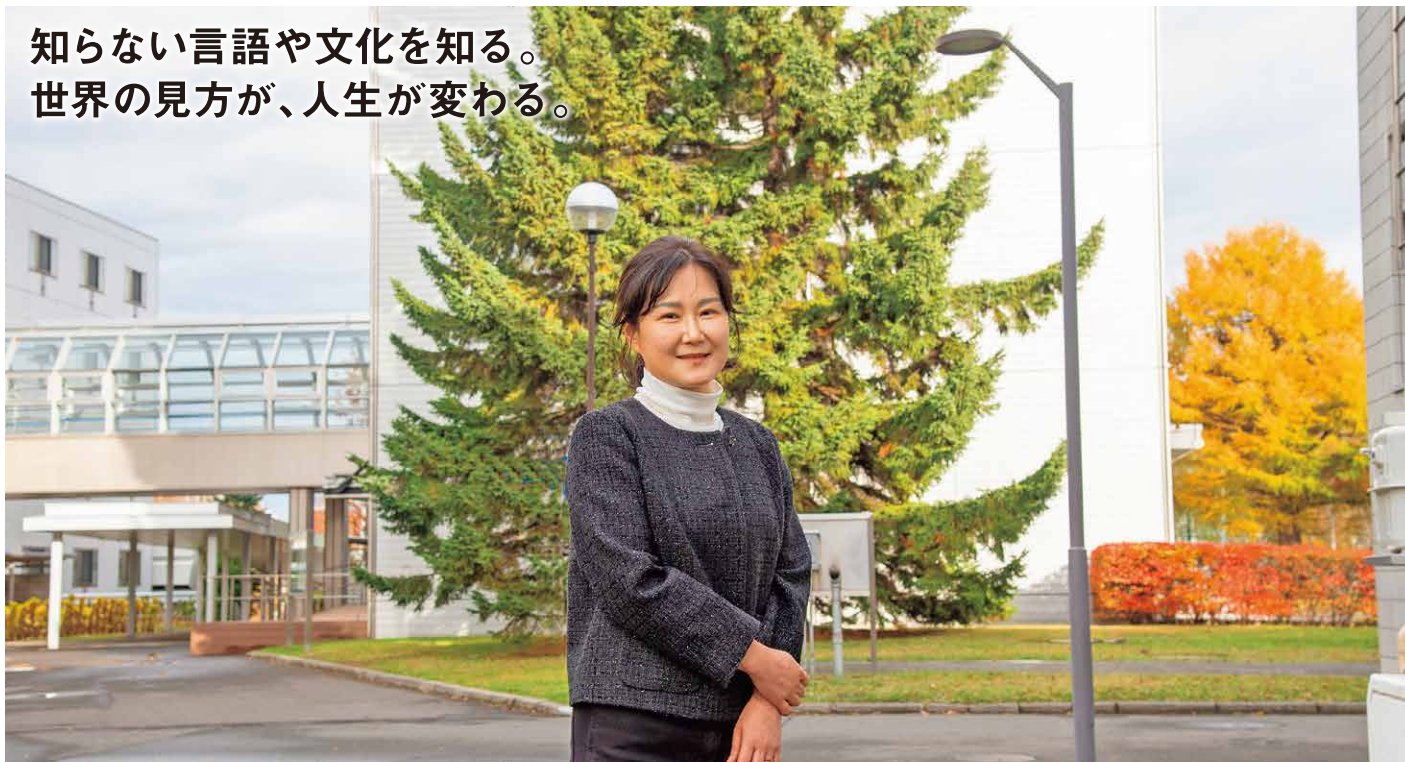
先生たちの その素顔

経済学部 共通部門 チョン クン ジュ 鄭 根珠 教授

PROFILE

韓国出身。早稲田大学 アジア太平洋研究科 国際関係学 博士課程修了。早稲田大学文学部非常勤講師、早稲田大学オープン教育センター准教授を経て、2016年北星学園大学経済学部共通部門准教授に着任。2020年より現職。

知らない言語や文化を知る。
世界の見方が、人生が変わる。



■日本の言語や文化、歴史に興味を湧き、日韓関係史を研究

私が韓国で暮らしていた時代はまだ日本の大衆文化が規制されていて、公に目にするものはほとんどありませんでした。でも若者の間では日本の小説や漫画、テレビ番組などのコピーが出回っていて、私もそれを通して日本の言語や文化、歴史に興味を持ちました。友達から借りたカセットテープでレベッカの「フレンズ」を聴き、女性がロックを歌うのがすごく新鮮だったのを覚えています。

大学の専攻は歴史学でしたが、日本語・日本文学科の科目も受講していて、3年の時に2週間の研修で初訪日。日本への興味がさらに深まると同時に、日本の大学生と交流してすごく刺激を受けました。大学卒業後に就職したものの、やはり日本で学びたくて早稲田大学大学院に進学。韓国ではほとんど報道されなかった金大中拉致事件を機に、日韓関係史や歴史認識問題を研究してきました。

■学生たちよ、学費以上の学びを欲張ってみよう！

私が日本に来た頃は日本の若者は韓国に無関心でしたが、冬ソナやK-POPなどの韓流ブームが到来。今や「韓流」は死語と言われるほど、韓国の文化は当たり前前の存在になりました。韓国でも日本のアニメや漫画などの人気が高く、双方向のバランスが取れた文化交流が定着したと感じています。

大学で担当している韓国語のクラスでも多くの学生が受講していますが、本気で韓国語をマスターしたい人はごくわずか。韓国の語学研修プログラムもありますが「現地で勉強するより気軽な旅行がしたい」と考える人も多いようです。旅に出るのは大賛成ですが、せっかく学費を払っているのだからもう少し欲張ってほしいと思います。母国以外の言語や文化を知っていれば行動範囲も人間関係もぐんと広がり、多角的な視点で世界を見ることができるのです。私自身も日本に来て日本の言語や文化にふれ、いろいろな経験をしたことで人生が大きく変わりました。学生にも母国以外の言語や文化に興味を持ち、思いきって世界へ飛び出してほしいですね。



旅が好きで、休みが取れると計画も立てずに海外へ飛び出します。ポルトガルの美しい街並みと民族歌謡の調べは忘れられません。



旅先で買い集めたご当地マグネットのコレクション。小さなデザインの中に国や地域の特徴が凝縮されているところが魅力です。



本学WEBサイトコンテンツ「研究者ストーリー」で鄭先生のインタビュー動画を閲覧できます。
<https://entry.hokusei.ac.jp/scholar/jung>



今こそ!

北星に行こう!!!!

きっと誰もが一度は使ったことがあるはず!今回は学生の中で些細な楽しみと支えになっている食堂と食に関して大学で行っている取り組みについてキタポシ(学生広報委員)が紹介していきます。学食メニューで私たちのイチオシはケーキです!主食以外にサラダやスイーツもあるんですよ。



朝食を食べよう!

朝食50円キャンペーン ～学生の健康を支える取り組み～



本学では、学生の健康と生活支援を目的に「朝食50円キャンペーン」を実施しています。このキャンペーンは医療互助会費の還元の一環として毎年4月、5月、9月、10月に定期的に行われ、栄養バランスの整った朝食を50円という低価格で学生に提供しています。地元メディアでも取材を受け、取り組みが広く紹介されました。昨年9月の「朝食50円キャンペーン」では、厚別区の保健師さんにより栄養バランスを考慮した献立が提供されました。朝食を摂る学生が減少する中、このキャンペーンは学生にとって経済的な負担を軽減しつつ、健康的な生活習慣を支援する重要な役割を果たしています。学生である私自身も、朝食が大切だと理解していますが、試験期間や忙しい時期には、朝食を摂る余裕がなくなること



あります。また一人暮らしをしていて、このキャンペーンをよく利用している友人は「栄養を考えて朝食を作る余裕がなく、経済的にも助けられる」と話していました。毎度完売する商品もあるほど学生に利用されている「朝食50円キャンペーン」、今後もこのような取り組みが続くことを期待しています。

※医療互助会費は、学生が医療支援を受けるための費用として積み立てられています、その一部を活用して学生に向けたサービスを提供しています。

大学生協食堂の取り組み

食堂では全国大学生協グループの調理師や栄養士が中心となり、学生の健康や日々の楽しみを支えるメニューを考案しています。また、季節感を大切にメニューに加え、期間限定のフェアメニューなどバラエティ豊かな食事が提供されています。フェアメニューの中でも、九州・沖縄フェアのような地域特集は「おいしそう」「食べてみたい」などと多くの学生に喜ばれています。また、学生の声がメニュー作りに反映されることもあり、投票を通じて人気メニューを決定するなど、利用者が主体的に参加できる仕組みを取り入れています。今後はさらに学生を巻き込んだ企画を充実させていこうです。提供されるメニューは、学生にとって課題となりがちな野菜不足や栄養バランスの偏り、欠食に対しても配慮されています。たとえば野菜不足に対して、小鉢や汁物に野菜を取り入れることで日常的に野菜を摂りやすくなるようにメニューが考案されていたり、欠食に対しては「50円朝食」を通して朝ごはんを抜きがちな学生に、朝ごはんを食べ



大学生協食堂

るきっかけ作りが行われています。コロナ禍では黙食が求められ、食堂の利用が制限されましたが、最近では談笑しながら食事を楽しむ学生の姿が戻りつつあります。運営スタッフの方は「食堂はただ食事するだけでなく、コミュニケーションを楽しむ上でも大切な場所です。賑やかな雰囲気が戻ってきてうれしく思います」と話してくださいました。これからも食堂が学生の日常に些細な喜びを生み出し、健康で豊かな生活をサポートする場であり続けて欲しいと感じます。





TOPICS

ICT教育の取り組みを紹介する
WEBサイトを開設しました

社会のあらゆる分野でICT導入が進む中、北星学園大学では「授業」と「環境」の両面からICTスキルを養う取り組みを推進しています。デジタル時代に不可欠なパソコンスキルと情報リテラシーを習得する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」、各自が所有するノートパソコン等を活用した学習「BYOD (Bring Your Own Device)」などについて、WEBサイトで詳しくご紹介しています。



<https://www.hokusei.ac.jp/career-job/>

キャリアデザインセンターの
WEBサイトがリニューアルしました

学生のキャリア形成や就職活動を支援するキャリアデザインセンターのWEBサイトがリニューアル。数字や図解を効果的に使用したメリハリのあるデザインで、本学の就職実績やサポート体制などをわかりやすくご紹介しています。本学への進学を検討している高校生や保護者の皆さま、新卒採用をお考えの企業・団体等の皆さまも、ぜひご活用ください。



https://www.hokusei.ac.jp/certification_program/

北星学園大学オリジナルグッズが当たる！

まちがいさがしクイズ

北星学園大学の構内を紹介する2枚の写真を見比べて、右の写真の5個の間違ひを探してください。Webやハガキで応募すると、抽選で10名様に北星学園大学オリジナルグッズが当たるチャンス！

[今号のまちがいさがしスポット]

ラーニング・commons

センター棟2Fにあるラーニング・commonsは、多種多様な学習スタイルに合うように考えられた6つのエリアがあり、グループワーク、創作活動、プレゼンテーションなどの学習を行うことができます。
https://www.hokusei.ac.jp/activity/learning_commons/



★応募要項

下記応募フォームまたはハガキにて以下の内容をご記入の上、下記送付先までご応募ください。

①問題の答え(まちがい5個) ②郵便番号 ③住所 ④氏名
⑤電話番号 ⑥HOKUSEI@COMのご意見・感想

送付先：〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

北星学園大学 HOKUSEI@COM「まちがいさがし」係

■応募締切日：2025年3月1日(土) 必着

■応募フォーム：https://www.hokusei.ac.jp/hokuseicom_quiz/



★正解発表

『HOKUSEI@COM』39号
(2025年8月発行予定)に
掲載いたします。

※ご応募は1号につき、おひとり様1回までとさせていただきます。

※正解者の中から厳選なる抽選の上、当選者を決定いたします。

※当選の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お送りいただいた情報は賞品の発送のみを目的に使用させていただきます。

※ご住所・転居先の不明等で賞品をお届けすることができない場合は、当選を無効といたします。

前号の
正解



Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部

発行／広報委員会

〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号 TEL 011-891-2731 (代表)

URL <https://www.hokusei.ac.jp> E-mail koho@hokusei.ac.jp

